

自治が変わる・自治を変える

SAITAMA 自治研通信

【発行】公益財団法人埼玉県地方自治研究センター【住所】埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-3-5 県労評会館

【TEL】048-816-8866

【FAX】048-836-1113

【HP】<http://www.saitama-jichi.jp/>【Eメール】info@saitama-jichi.jp

10月14・15日第36回地方自治研究全国集会・仙台市が開催されました

—埼玉からは組合員・議員など13人が参加・参加者の感想をお届けします—

二年に一度の地方自治研究全国集会が10月14日から16日（16日は被災地フィールドワーク）仙台市・仙台サンプラザホールを中心とする会場で開催されました。

埼玉からの参加者は現役の自治労組合員や自治体議員など13名でした。1日目は全体集会で基調提起や記念講演、自治研賞の表彰、そしてパネルディスカッション「希望の光を地域から～若者も高齢者もいきいきとくらせるまちづくり」が行われました。2日目は13のテーマによる分科会がそれぞれの会場で行われました。16日は被災地をめぐるフィールドワークで2コースに分かれ埼玉からも5人が参加しました。

参加者には初めての方もおり、自治研センター会員で参加された方から感想が届いていますので掲載して集会の報告とします。



単組自治研活動の強化をお願いします

当センター評議員 佐藤洋（桶川市議）

久しぶりの自治研に参加して、昔の何か大学の授業のような光景から、日常の実践から地域をまとめ、分権の息吹を感じました。



聖和学園高等学校吹奏楽部の演奏

全体会も、実行委員会の企画力が光り、高校生・聖和学園高等学校吹奏楽部の歓迎アトラクションやパネルディスカッションでは各界からのゲストが多彩で素晴らしかった。

私の参加した第12分科会は住民協働がテーマで、各地の取り組みに感心しました。とりわけ自治労OBの正に団塊の世代の活躍に感動しました。若い組合員の活動と大和高田市商店街の活性化でクリーンセンターの提携には、日ごろの地域との連携、まさに自治労の公共サービス労働運動の原点を教えてくださいました。

今年も自治研賞の表彰がありました。過去、私の桶川市職が「障害者リサイクルセンター」というテーマで鳥羽自治研で副賞をいただいたことが、昨日のように思えます。埼玉県下の単組に自治研活動の取り組みの強化をお願いいたします。

初めて全国地方自治研究集会に参加して 当センター会員 今関公美（北本市議）

初めて全国地方自治研究集会に参加させていただきました。

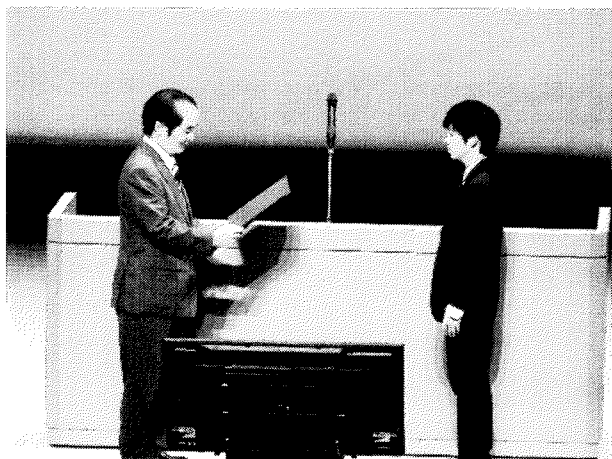
全国からの参加人数の多さに驚き、1974年から40年の実績が物語っている結果だと思いました。

また東日本大震災から5年という節目に、被災地で開催される地方自治研修会のサブテーマである「囲むべ、東北・宮城で“希望”の鍋」に込めた講演内容や分科会の内容であったと思いました。

1日目の地方自治研究では様々な分野の研究が方向からでなく、角度を変えた見方や分析などされていました。

この様な受賞レポート・論文は、身近な問題が詳しく研究されていて市民にも広くアピールをしていく必要があると感じました。

その中でも今回自治研活動部門奨励賞の秋田県本部の『消防行政とタイアップし入浴事故減少普及活動を推進した試み』は興味を引きました。



上 自治研賞の表彰式の様子

これから寒くなり入浴回数も多くなる季節に、心と身体を温めリラックスさせ楽しみの1つである入浴中に事故が起こらないようにするための取り組み、企画、研究とわかりやすくまとめてあり、北本市民にも広くアピールしていく必要があると感じる内容でした。また、今では当たり前の“ゴミ分別”はこの地方自治研究から全国に広まったとお聞きしました。

午後からのパネルディスカッションでは、なかなか聞く事の出来ない「生のこえ」特に、今活躍している若者の考えや何を求めているのか等知

ることができましたが、もう少し時間を取って頂きたかったです。



上 パネルディスカッションの様子

2日目の分科会は、どれも興味を引くもので選ぶのに悩みましたが、“人がひとを支える、それがまちをつくる”のテーマ内容にひかれ『ほんとうの住民協働とは？』を選ばせていただきました。

各レポートの講義を受けて「何をどうやりたいのか対話」であったり、「お互い学習していくプロセスが協働の第1歩」と、分科会に参加したことで協働の意味が見えてきました。

議員1期生の私にとって地方自治研究全国集会はとても勉強になり、夜は宮城県の美味しいものを食べ、実りある（頭も体も？）2日間でした。今回学んだ事を北本市民のために活かしていけるように頑張ります。

復旧・復興は道半ば、風化させずに国民的課題として

理事長 浪江 福治

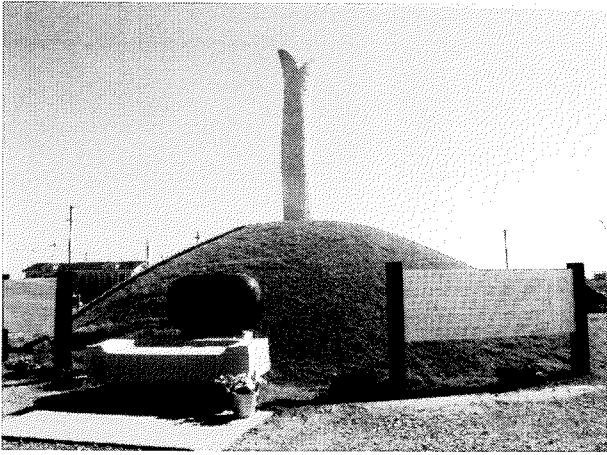
第36回地方自治研集会のフィールドワーク（南コース）に参加しました。10月16日の9時から15時過ぎまで、宮城県仙台市荒浜、名取市閑上、岩沼市千年希望の丘、山元町、福島県南相馬市を大急ぎで視察をしてきました。お忙しいにもかかわらず説明をして頂いた関係者の皆さんに感謝いたします。

復興計画及び進展状況は、様々な資料等によって明らかにされているので、自身の感想を述べて報告にしたいと思います。

この5年間、宮城、福島両県とも復旧・復興は進んではいますが、復旧・復興の道のりはかなり

長期に亘るであろうと感じました。その中であつて、それぞれの震災の地には慰霊碑が建立された場所もあり、現状を説明された方からは「震災を忘れさせず、この教訓を生かすんだ」という強い思いがうかがえました。

下 名取市閑上の慰霊碑



復旧工事、かさ上げ道路工事等々も進んでいますが、東京オリンピック工事の影響で、被災地は人材不足にあるとお聞きしました。本来は、「東京オリンピックまでは何とかしたい」という思いも、「復興は東京オリンピックが終わればもっと進むであろう」という声になってきた感もあるとお聞きしました。

経費の掛からないコンパクトなオリンピックという当初の計画から、数倍に経費が膨らみ、何兆という税金がつき込まれようとしている話を聞くと、「もっとこういった被災地にそのお金を回せないか」と強く思いました。

原発による被災地はさらに深刻でした。「警戒区域」「避難区域」「住制限区域」「帰宅困難区域」等々に指定され、解除された区域もありますが、未だ除染作業中の区域もあり、「除染廃棄物」の処理も進まず、「除去された土などのフレコンバック」なども仮置き場に置かれたままになっておりました。解除された区域でも帰宅している方々は元の住民の何割かに過ぎないとの事でした。

原発の被災については、廃炉に向けた気の遠くなるような本当に永い年月が必要だと思われますし、地域の放射線量の相当長期にわたる監視、健康調査等々が必要で、国の総力をあげてのこの

問題に取り組むべき課題と言えます。



上 南相馬市の住宅 震災直後のままだ（取り壊しもできず1階は壊れたまま誰もいない）

原発立地地域だけの問題とせず、今後の国の方向性を原発に頼らない電力生産に変えていく事を真剣に考得する必要があります。そのためには絶対に風化させることなく、全国から関心を持ち続けていく事が大事だと改めて思いました。

地方自治研究全国集会（仙台）に参加して 当センター会員 武井 誠（坂戸市議）

本当に多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。スペースの許す限り、心に残った言葉の数々を、順不同で記します。

◆震災直後の自治体職員の苦勞。未だ震災「後」という中での開催。しかしあのかの恩返しと考へ、開催を引き受けた。（現地実行委員長あいさつ）

◆「がんばろう！」から「変わろう！」へ。震災は天災、原発事故は人災。同じ道を歩むのではなく、何を頑張ればいいのか、あるべき社会を考える契機としなければならない。（パネルディスカッション。コーディネーター大江正章さん。）



◆原発の電力は東京、事故の被害は地元が受けるのは理不尽。豊かな自然、食料、電力は地元で自給できる。百姓は、100の仕事ができる。分業を進めることの中で失われてきたものを取り戻す。人口減少する中で、経済成長を求めてどうする。(会津電力社長佐藤さん)



◆豊かさ、幸せとは何か。都会からくる若者は、関係性を求めてくる。自然と調和し地域の人々と分かち合って生きる。より速く、遠く、合理的に、から、ゆっくり、近く、寛容に。若者たちの田園回帰が始まっている。「移住女子」への期待。(大江さん)

◆仮設住宅の孤独死の問題。一方で、被災を機に、今度は地域のために働きたいという人も。被災地で生まれた助け合いの作風を残し、育てる。キーワードは「攪拌」。いろいろな活動をしている人を混ぜると起こる化学反応。(宮城県社協震災復興支援局北川さん)

◆学生街から雀荘なくなる、サークルよりもスマホ、一人カラオケ、コンビニ、カップヌードル。しかし、その結果としての無縁社会でいいのか。

◆酒よりタバコより寿命にもっとも大きな影響を与えるのは「つながり」。孤独は体に悪い。

◆つながりを育てる地域づくり。家族、地域の変化。サービス供給を考えていけばよかった時代から、地域づくりを考えなければならない時代に。

◆ケアとは世話。専門的なそれではなく「お手伝い」のケアが、一番効果的な自立支援。

◆2025年には医療費1.5倍、介護2.4倍。(信州大学井上教授)

◆介護保険サービスを含む個別支援の強化が、

つながりの希薄化さらなる孤立化を生む皮肉。人こそ宝。

◆サービスづくりではなく地域づくりへ発想の大転換を。機能訓練重視から社会参加による介護予防へ。メンバーをお客さんにしない協議体づくり。社会資源は開発より発見、すでにあるものを見つける。(仙台白百合女子大学大坂教授)

最終日、「超高速」フィールドワークで宮城、福島被災地を回り、風化させられかけていた記憶を取り戻す中で、3日間の研修で学んださまざまなことが、ジグソーパズルのピースがはめ込まれて一つの絵になるような感覚を味わいました。私たちは、震災・原発事故を機に、命を人間を大切に社会をつくらなければなりません。

2年後の「高知自治研」にもぜひ参加させていただきたいと思います。

次回も参加したいとの声をたくさんいただきました。佐藤洋さんのお願いにもあるようにぜひ単組でも職場自治研に取り組んでいただきたい。(船橋)

「良い社会をつくる公共サービスを考える5・24埼玉集会」パンフレット『TPPが公共サービスに与える影響』を同梱しました

5月24日に埼玉県公務公共サービス労働組合協議会と共催した標記集会の記録パンフレットが出来上がりましたので同梱しました。

国会で批准をめぐる論争が行われていますが、アメリカも批准しなさそうなのに安倍政権の暴走には本当に腹が立ちます。ぜひ闘いの糧にお読みください。

会費納入のお願い

今年もあと2か月となり月日のたつのがとても速く感じます。

5月にお願いしました個人・団体会費の納入ですが、今回「郵便振替用紙」が同梱されている方は、まだ会費(3000円)が納入されておられませんので、できるだけ早めにご入金ください。なお、疑問な点がありましたら事務局までご連絡ください。

TEL 048-816-8866